

平成23年度

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例

○財務上の貢献が特に顕著な者に対する財務貢献者報奨制度の整備

<学外委員意見>

- ・他の大学や研究機関との差別化を進め、優秀な人材を集めることが必要だ。【平成21年度第1回経営協議会】
- ・新しく報奨制度を創設する際に様々なリスクを考慮しておく必要はあるが、教育研究活動を活性化するための1つの方策として、まずはチャレンジすることが重要である。【平成23年度第1回経営協議会】
- ・組織全体を活性化するために、組織に対して何らかの貢献をした人を奨励することは重要である。【平成23年度第1回経営協議会】
- ・外部資金の獲得による研究者評価制度の創設など、自然科学分野だけで構成されている奈良先端大の特長を最大限に活かし、大学を活性化させていくことが必要である。【平成23年度第2回経営協議会】

<主な取組事例>

- ・財務上の貢献が特に顕著な者に対して報奨し、間接経費等の獲得総額に応じて報奨金を支給する報奨制度を整備した。
[平成23年度の財務貢献者報奨制度の対象者数]
：38名（平成23年10月3日に財務貢献者報奨授与式を実施し、平成23年10月25日に報奨金を支給）

○奈良先端科学技術大学院大学基金の設置

<学外委員意見>

- ・奨学金制度について、奈良先端大は大学院大学なので、他の大学の優秀な学生に入学して欲しいので、入学してからの奨学金だけではなく、理系に進む道筋を付けるために入学前の学部生の時から支援できるような奨学金があってもいいのではないかと。【平成22年度第3回経営協議会】
- ・一度に高額を寄附された方への謝意表明だけでなく、継続的に寄附金を集めるため、寄附の累積額に応じて寄附者に謝意を表明する場合についても検討してはどうか。【平成23年度第2回経営協議会】
- ・優秀な学生を表彰する大学だということを、大学文化の中に位置付けることは、優秀な留学生の確保に向けて大変有効である。【平成23年度第2回経営協議会】

<主な取組事例>

- ・世界トップレベルの教育研究拠点の形成に向け、本学における教育研究、社会貢献及び国際交流の一層の推進並びに教育研究環境の整備充実を図ることを目的とする奈良先端大基金を設置した。また、学外委員の意見を踏まえ、累積額に応じて寄附者に謝意を表明する運用を行っている。
- ・奈良先端大基金の事業は、以下のとおり。
 - (1) 学生の修学を支援する事業
 - (2) 留学生を支援する事業

- (3) 教育研究のグローバル化を推進する事業
- (4) 社会との連携や社会貢献のための事業
- (5) その他基金の目的達成に必要な事業

○国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学危機管理規則/危機管理基本計画（平成24年2月1日施行）の制定

<学外委員意見>

- ・重点戦略経費を活用して、学長のリーダーシップを発揮すること及び不測の事態に備えることが必要ではないか。【平成22年度第4回経営協議会】
- ・例えば、自然災害によって、大学が運営できないような事態に陥ってしまう危機にも対応できるよう、大学自身が備えておくことも考えておかないといけない。【平成23年度第4回経営協議会】
- ・危機の種類や範囲として財政や運営に関する危機が想定されているが、具体的な危機事象の事例や主となって対応する部署等についても、明確化しておいたほうが良いだろう。【平成23年度第4回経営協議会】

<主な取組事例>

- ・東北地方太平洋沖地震の発生も踏まえ、自然災害を含む様々な危機に対して、組織的に迅速かつ的確に対処し、学生及び教職員の安全確保を図るために必要な危機管理の基本事項を定めた危機管理規則を制定した。
- ・また、本学の危機管理に関し共通的な事項を定め、大学の様々な活動における危機の未然防止を図るとともに、危機が発生した場合にあっては被害及びその影響を最小限にとどめることを目的とする危機管理基本計画を策定した。
- ・不測の事態に備えるため、重点戦略経費を活用して災害用備蓄物資の緊急整備を行った。

○重点戦略経費（学長裁量経費）による継続的な教育研究活動の支援

<学外委員意見>

- ・学長のリーダーシップで支出できる重点戦略経費の金額が多いことは良いことであり、この重点戦略経費で大学がますます発展するよう将来を見据えて使って行って欲しい。【平成22年度第2回経営協議会】

<主な取組事例>

- ・法人化後、本学の将来を見据えた投資的経費や国際的に卓越した教育研究拠点の形成に係る経費を中心とする重点戦略経費により、継続的・戦略的に教育研究活動を支援している。